

ここではトウヌシ沢に入ってから記録のみにとどめる。

8:35入りトウヌシ沢に向かう尖戸・渡辺パーティと別れ、雪渓の上をトウヌシ沢へと向かう。平年ならばこんなに雪渓は続かないだろう、今年は雪が多かったのだろう、などと話しながら歩いてゆく。やがて雪渓の向こうに滝が見えてきた。雪渓から直接取り付くのは無理なので、左岸を搦き、滝の落口に降りる。しかし、滝が連続し、直登は困難と判断。右岸を高搦き懸垂下降にて沢に降りる。

その後も滝は次々と出てくるが、直登というよりは左岸なり右岸なりの岩稜・草付を登るのが多く、快適なシャワークライムの連続とはいかなかった。そればかりか、50mの滝(3段で一部ナメ状)の左岸の草付を登っていて、私がスリップ。1~2mぐらいすべり落ちるも、運よく頼指程の小石で止まることができ、事なきをえた。

それから数本の滝を過ぎた後、10mの滝で行きずまる。少し戻って右岸の支沢ぞいに搦くが、懸垂下降の支点がなく、沢へ降りることもできない。そのまま沢ぞいに稜線を歩いて尾根に出、遡行終了となる。(記)

【タイム】 入りトウヌシ沢出合(8:35)→尾根(13:15)

## 9. 只見川中流域の沢

昨年夏に続いて今年も只見川中流域の沢の遡行に取り組んだ。以下にその時の8本の沢の記録を紹介する。

### 本名御神楽岳鞍掛沢

1984年8月26日

I

本名ダムを車で出発。20分で三条部落の先の御神楽登山口に着き、御神楽登山道を足早に歩いて25分で霧来沢と鞍掛沢

の出合に到着。

7:40進行開始。3つの小さなナメの後、F<sub>1</sub>12mのナメ滝が出てきて、左岸を直登する。このあとしばらくはナメと瀑が続いた。

F<sub>2</sub> 8m 2段滝は、程よいホールドとスタンスがあり、難なく直登する。続くF<sub>3</sub>もナメ滝で、軽く直登する。

右岸のガレ沢を過ぎると、4mのF<sub>4</sub>直瀑。天気が良かったので、シャワーを浴びながら右岸に取り付き、直登。ここから沢は右に曲がる。

右岸から20mの滝をかけて支沢が合流した先に、35mはあろうと思われるF<sub>5</sub>が出現。右岸は一枚岩のスラブがズンとそびえている。今までの滝とは異なり、取り付きはハングの上、ホールド、スタンスもない。しかたなく左岸を推く。10分程で滝口に出た。

これより上は、次から次へと3~5m級の滝が連続し、気持ちよく直登。楽しい進行となった。

滝を10個程過ぎた所で、15mのF<sub>17</sub>。富塚さんが倒木でピレーをとり、滝田さんが中央部を直登しはどめる。途中で確保支点をとるつもりだったらしいが、適当なクラックがなく、そのまま直登。私は、左岸がチムニー状になっているのに気づき、富塚さんに指示。難なく直登できた。

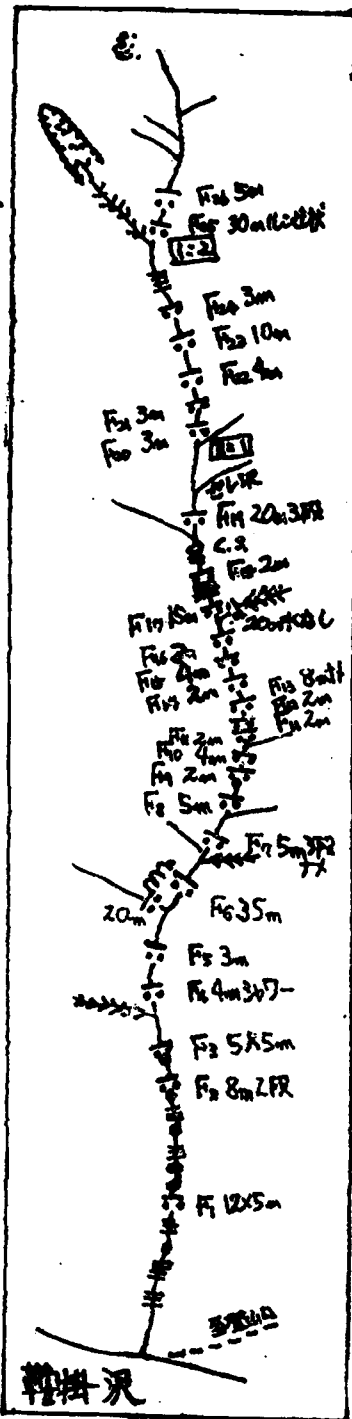
小滝と左岸支流を過ぎたところで、F<sub>18</sub> 20m 3段の滝。沢も狭くなり、水量も少なくなってきたので、これが最後の滝かと思ったら、この上にも結構いい滝があり、楽しかった。

源頭部に入り、ルンゼ状の二俣。左俣は上部がガレになっているので、右俣に入る。すぐに30mのルンゼ状の滝。水は流れていない。細かいホールドとワラジのフリクションをきかせて、岩登り気分直登。

この上も沢筋ははっきりしており、やぶこぎも5分程の短いもので登山道に出た。満足の一言。おすすめのコースである。

(記)

【タイム】 御神楽登山口(6:35)→鞍掛沢出合(7:40)→進行終了(11:15)→本名御神



乗岳(12:15)

### 風来沢本流

1984年8月25日

L1

林道の終点まで車で入り、砂防ダムの先から遡行開始。7:00。

しばらくは平凡な河原が続く。やたらと支流が多い。しかし、ガレ沢が殆ど。途中、岩魚を見つけ、つかまえようとしたが、岩の下に逃げられてしまった。

1時間近く河原を歩いたところで、藩をもった一枚岩の青銅色のナメとなる。明らかに沢の様相が変わる。いよいよ滝がでてくるかと思ったら、更に1時間、ゴーロだらけの河原歩き。

出発してから2時間余りでようやくF<sub>1</sub> 4 m. このあとすぐ二俣で、水量比は4:1で右俣が多い。右俣に入る。

この上も登りがいのある滝は、10mのF<sub>2</sub> くらいなもので、小滝ばかりである。

水が切れた所で遡行をやめ、昼食。前方の岩場にカモシカを見つけた。私達が下降を始めるまで、殆ど動かず、高見の見物をきめこんでいた。

カモシカと岩魚を見たのが唯一の救いだけの、つまらない沢であった。

(記)

[タイム] 風来沢出合(7:30)→二俣(9:15)→遡行終了(11:30)

